

令和3年度

**事業の課題に対する
健康局の取組み状況について**

大阪市における在宅医療・介護連携推進事業のめざすべき将来像

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、多職種協働により在宅医療と介護を一体的に提供できる体制が構築されている。

めざすべき将来像に向けての局の課題

1. 事業の進捗管理
2. 広域連携の仕組みづくり
3. 区役所・相談支援室に対する積極的支援

課題1 事業の進捗管理

課題1 に対する今年度の取組み

(1) 評価指標での進捗管理

- ・大阪市在宅医療・介護連携推進事業に関する医療施設等アンケート調査を実施
➡ 資料3にて報告

(2) 区役所・相談支援室への取組み調査からみる事業の進捗管理

- ・事業の取組み状況について区役所、相談支援室へ2回/年調査を実施
- ・個別支援の実施

課題2 広域連携の仕組みづくり

課題2 に対する今年度の取組み

さらなる広域連携へつなげられるよう、基本保健医療圏から大阪市域へ対象者を広げた研修会の開催

- ➡多職種研修会『認知症の方と家族の意思決定支援』を開催
令和3年10月22日 147名参加

課題3に対する今年度の取組み

(1) 区役所への支援

- ①『在宅医療・介護連携推進事業 区新任担当者等説明会』の実施
令和3年6月28日開催 区職員28名（新任者18名）、コーディネーター26名参加
- ②区役所への個別支援
令和2年度の取組み調査より支援が必要な区を抽出し、6月より支援開始
担当者を訪問して、事業および昨年度の区役所の取組み状況について説明
以降、適宜取組み状況を確認し、支援

(2) 相談支援室への支援

- ①新任コーディネーターへの個別支援
 - ・区役所担当者との連携の支援
 - ・対応した個別事例の振り返り
 - ・取り組んでいる活動が、どの療養の場面の課題につながる取組みであるかを整理をし、今後、どのようなことを意識しながら活動をしていけばよいか等の支援を実施
- ②新任コーディネーター向け『コーディネーター連絡会』開催
 - 1回目：令和3年5月18日「今困っていること、相談したいことを共有」
9名（新任者7名）参加
 - 2回目：令和3年7月26日「年間計画の立て方」
13名（新任者10名）参加
 - 3回目：令和3年11月22日「基礎から学ぶACP」
11名（新任者7名）参加

(3) 区役所・コーディネーターのスキルアップと連携

- ・『区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催
1回目：令和3年11月5日「地域診断～地域の課題を見える化しよう！～」
55名参加

区役所及び相談支援室への研修会の開催

実施済

第2回 区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター 合同研修会

【日 時】 令和4年2月2日（水） 午後2時～4時30分

【内 容】 『超高齢社会における歯科の役割～「つなぐ」ためのポイント』

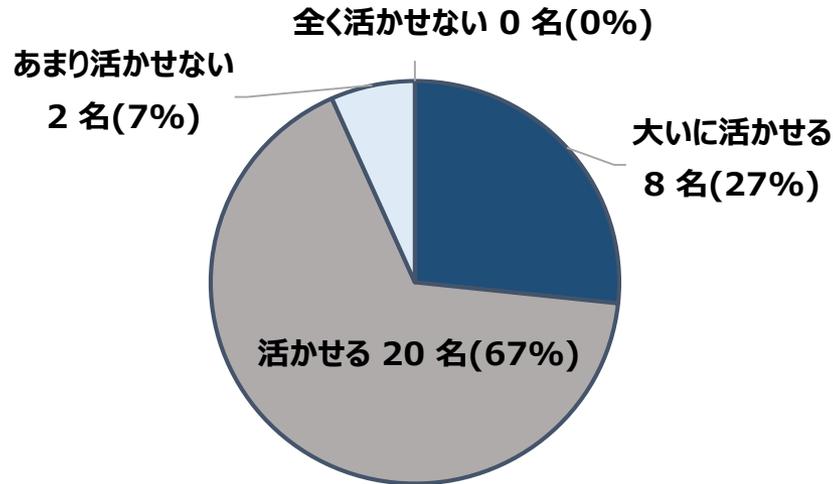
講師：平成歯科クリニック 院長 小谷泰子氏

【開催方法】 オンライン

第2回 合同研修会 アンケート結果

【参加者】 区役所職員 5名 コーディネーター 25名
【回収数】 区役所職員 5名 コーディネーター 25名 (回収率100%)

【今後の事業に活用できるか】



【自由記載】

【区職員】

- ・オーラルフレイル予防の必要性について知らない人が多いと思われるので、周知をしていきたい。
- ・機会をとらえて啓発をすること、歯科医療につなぐことが大切であることがわかった。
- ・介護の現場などに関わっている方々にむけて大変役に立つ情報であるので、機会を設けるなどして周知をしていきたい。
- ・医介連携の中に、歯科との連携を具体的にどのように位置付ければよいのか、どのように連携をとっていくのか難しいと感じている。

【コーディネーター】

【研修会の内容について】

- ・資料も見やすく、動画もあり、大変わかりやすい研修でした。
- ・定期的な歯科受診によるフォローの大切さを学ぶことができた。
- ・オーラルフレイルについて関心を持ち、嚥下や口腔機能について知ることで、普段は気づかなかったことに目がいき、歯科へつなげてみようと思える研修会でした。
- ・口腔内の仕組み(噛む、食べる、話すなど)の理解が深まり、なるほどと思えることが多くあった。
- ・要介護高齢者の歯科疾患罹患率の高さに驚きました。
- ・不顕性誤嚥の存在についてわかりやすかったです。
- ・ご本人からの訴えがないと、気づかないままになってしまう可能性があり、注意が必要だと感じた。
- ・食欲がなく、痩せていく事も、加齢による食事量の減少だろうと推測してしまっていたことが、口腔内の異常の発見を遅らせることになることがわかった。
- ・栄養をつけてフレイルを予防するためには、“食事は楽しみ”にならないと身につかないということが実感できました。
- ・歯科医が他の職種とどのような連携を望んでいるのか、高齢者を診察するにあたりどのようなことで困っているのかなどの話も聞いてみたかった。

【連携について】

- ・関係機関、多職種との連携の際に、口腔機能の点も考慮していきたい。
- ・多職種と歯科との連携がしやすい環境づくりが必要だと感じた。
- ・今後ケースに対応する場合、積極的に歯科の介入も勧めてきたい。
- ・当区でも3年前からフレイル予防に取り組んでおり、歯科との連携も図れるようになってきました。

【周知・啓発について】

- ・高齢者は、義歯が合わない、歯が痛いなど何かが起こらない限り受診しないため、定期受診の大切さを伝え、症状がなくても歯科検診を受けるように勧めていきたいと思った。
- ・大阪府歯科医師会のホームページの資料などもわかりやすく活用できるものが多いので、紹介をしていきたい。

- ・大阪府後期高齢者医療歯科健康診査の受診について、周知をしていきたい。
- ・各関係機関へ口腔ケアの重要性、オーラルフレイルについて情報提供をしていきたい。
- ・口腔ケアにとどまらないオーラルフレイルの重要性の啓発が必要だと感じた。
- ・予防医学としての歯科の重要性について住民に普及していくことの難しさを感じている。

【今後の研修会への要望】

- ・事例検討（好事例、困難事例、複合問題を抱える事例など）
- ・訪問看護や訪問介護の訪問先での暴力やトラブルの実情と防御策
- ・診療報酬改定について
- ・区役所の担当者とコーディネーターが共通認識をもって事業展開ができるような研修
- ・ACPについて